

# ブレグジット・パラドクス —欧州統合のゆくえ

慶應義塾大学法科大学院教授 庄司 克宏

- \* 離脱の具体案がない
- \* 保守党過半数割れの不幸
- \* 北アイルランド問題が暗礁に
- \* 主権共有 vs 主権回復
- \* メイ首相の戦略的誤算
- \* 北アイルランドのトリレンマ
- \* 強硬派は合意なき離脱へ
- \* ブレグジット・パラドクスとは何か
- \* イギリスの混迷は終わらない
- \* 再国民投票の可能性は



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日は3回目になると思いますが、慶應義塾大学の庄司先生においでいただきました。ヨーロッパがご専門でございます。

かつてはヨーロッパというとメディアにもあまり出てこなかったのですが、最近は毎日のように新しいニュースが入ります。今日は、イギリスのブレグジットが混迷の度を深めているということ、これがどうなっていくのか。それから、ヨーロッパ各地でいろいろな問題が起きております。日本にいます、そういったことはたいへんわかりにくい問題ですので、今日はそこをわかりやすくお話させていただきます。それは庄司先生、よろしくお願いたします。（拍手）

庄司 ただいまご紹介にあずかりました慶應

義塾大学の庄司でございます。本日はよろしくお願いたします。

今日は「ブレグジット・パラドクス——欧州統合のゆくえ」というタイトルでお話をさせていただきます。なぜパラドクスなのかはいちばん最後まで聞いていただけるとわかるような設定しております。

## 離脱の具体案がない

本題に入る前に、混迷しているイギリスで何が起こっているかを振り返りたいと思います。ご存じのように2016年6月23日にイギリスのEU離脱を問う国民投票が行われ、離脱が約52%を占めて、離脱の方針が決まったところから混迷が始まります。当時のキャメロン首相が